



**組織を変えるコミュニケーションの新しいカタチ
ワークスタイル変革を成功に導くカギとは**

本資料の目的 ～ワークスタイル変革成功のカギはどこにある？～

1章 ワークスタイル変革はなぜ必要？

なぜ今、ワークスタイル変革が求められるのか
ワークスタイル変革を阻む“3つの壁”

2章 ワークスタイル変革の“カギ”はコミュニケーションにあり

働き方が変わればコミュニケーションも変わる
ワークスタイル変革の土台はコミュニケーションツール

3章 新しいコラボレーションのカタチ HUDDLE WORKPLACE

ワークスタイル変革を成功に導く新提案
チームのコラボレーションに必要な環境とは
オフィス空間 × ビジュアルコミュニケーションツールで創るHUDDLE WORKPLACE
HUDDLE WORKPLACEの活用例
HUDDLE WORKPLACEを実現するリコーのビジュアルコミュニケーションツール

ワークスタイル変革成功のカギはどこにある？

2016年8月、内閣改造により働き方改革担当大臣が設置されて以降、**ワークスタイル変革（働き方改革）は国を挙げて取り組むべき課題**となっています。

2019年4月1日からは**働き方改革関連法が順次施行**となり、企業として本格的な取り組みが求められています。

ワークスタイル変革（働き方改革）は、**少子高齢化や多様な働き方のニーズに対応しつつ、企業としての生産性や競争力を高める**という難しい課題です。

多くの企業がすでに取り組みを始めていますが、取り組みを始めたばかりで**実施が進んでいない企業も多い**のではないのでしょうか。

▶ 当資料では、客観的なデータに基づいて**ワークスタイル変革が求められる必要性**を改めて確認したうえで、ワークスタイル変革の**推進を阻む課題**を解説します。さらに、**成功へ導くための注目ポイント**を紹介します。



1章 ワークスタイル変革はなぜ必要？





なぜ今、ワークスタイル変革が求められるのか

●従来の働き方が通用しなくなった「4つの背景」

2016年8月に発足した改造内閣では、政策の大きな柱の1つとして「働き方改革」を打ち出しています。日本が抱える社会構造や労働環境における実状により、従来の働き方が機能しなくなってきたことが、いまや**ワークスタイル変革が国家戦略**として扱われるようになった原因です。

①労働人口の減少

②低い労働生産性

③労働環境の悪化

④弱まった国際競争力



1章 ワークスタイル変革はなぜ必要？

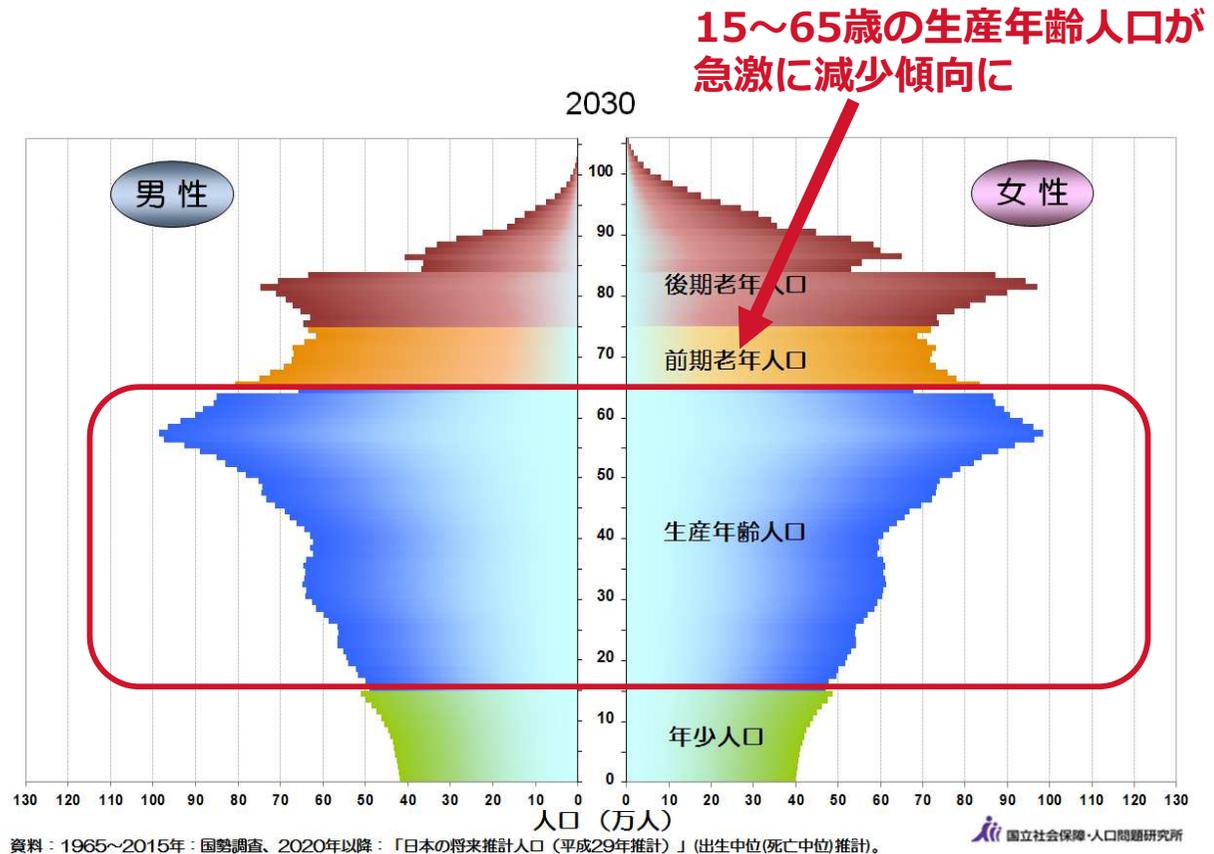
背景その① 労働人口の減少

- 2030年には853万人の減少で生産年齢人口は6875万人に

国立社会保障・人口問題研究所の統計によれば、2015年の生産年齢人口が7728万人であるのに対し、現状のままでは2030年には6875万人へ減少すると見込まれています。

わずか15年で1割以上の生産年齢人口が減少してしまうという計算になります。

そのため、企業では労働力確保のために、**女性や外国人の労働環境を整えて、人材確保を図るダイバーシティ**の必要が生じます。



出典：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (<http://www.ipss.go.jp/>)

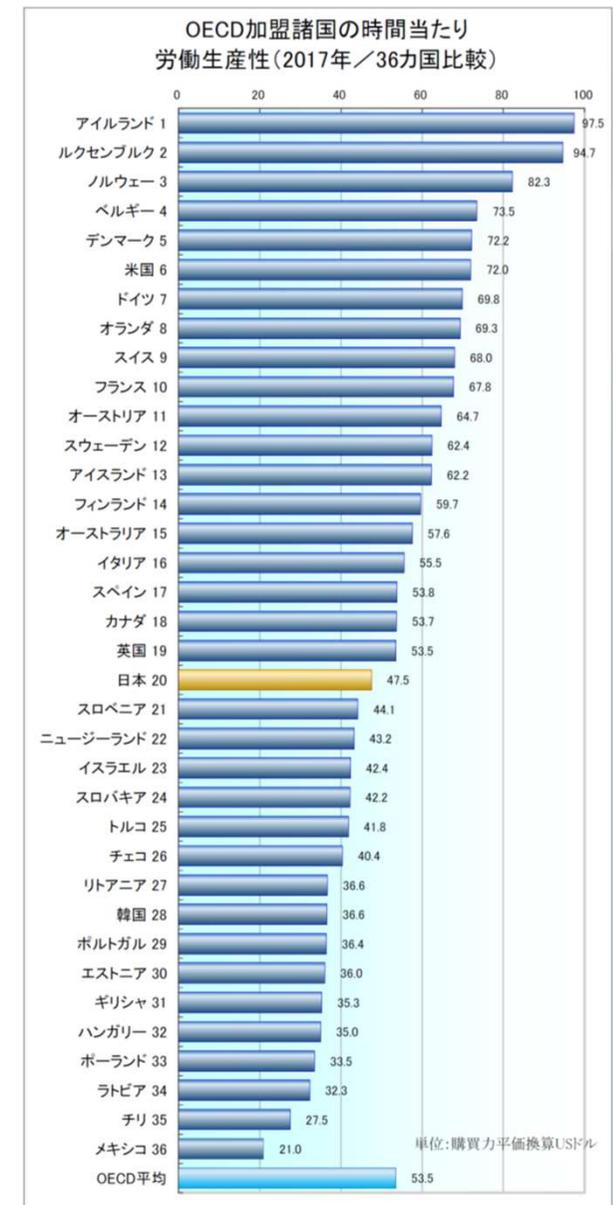
背景その② 低い労働生産性

● 主要先進7カ国で最も低い日本の労働生産性水準

2017年の日本の時間当たり労働生産性は47.5ドル、米国の3分の2程度でOECD加盟36カ国中20位。

日本の名目労働生産性は前年から1.4%増加したものの、**主要先進7カ国では1970年以降、最も低い水準**で推移しています。

労働生産性が低いということは、他国のライバル企業と互角に競争していくにあたって後れを取ってしまっているということです。そのため、働き方を改善することで、**労働生産性を高め、競争力を身につけることが急務**となっているのです。





背景その③ 労働環境の悪化

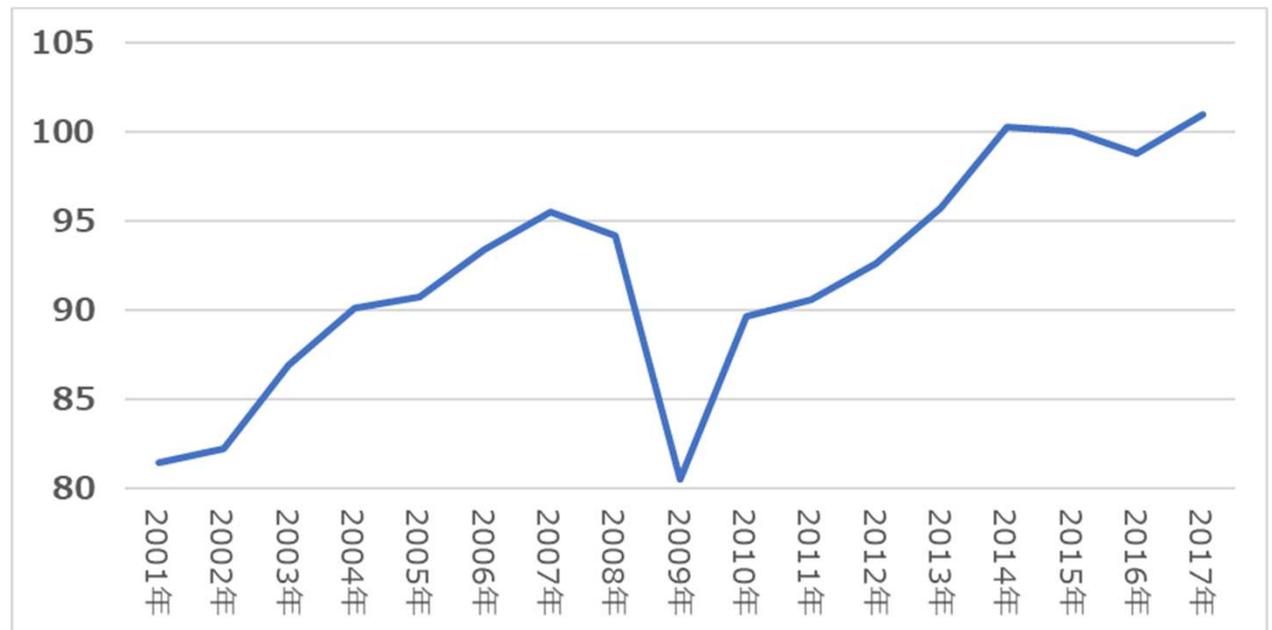
● 「長時間労働」が会社の評判や業績に影響を与えるケースも

就業労働時間全体は減少傾向にありますが、これはパートタイム労働者比率が高まったためであり、実際のところは右表のように**一般労働者の残業時間は2009年以降急激に増加し、2014年以降横ばいの状況**です。

長時間労働が続くと、生産性低下を引き起こすだけでなく、**鬱などの精神障害や場合によっては過労死などを引き起こす**こともあります。

育児や介護、趣味や学習、地域活動など、各自の置かれた状況に応じて仕事と生活のバランスをとることのできる**「ワーク・ライフ・バランス」**を実現することが、労働者だけでなく、企業にとっても**「優秀な人材の確保」や「時間労働生産性の向上」**などのメリットになるのです。

一般労働者の所定外労働時間指数 (2015年 = 100)



出典：厚生労働省 毎月勤労統計調査 平成29年分結果確報



1章 ワークスタイル変革はなぜ必要？

背景その④ 弱まった国際競争力

●かつては1位の「世界競争力」も26位と低迷

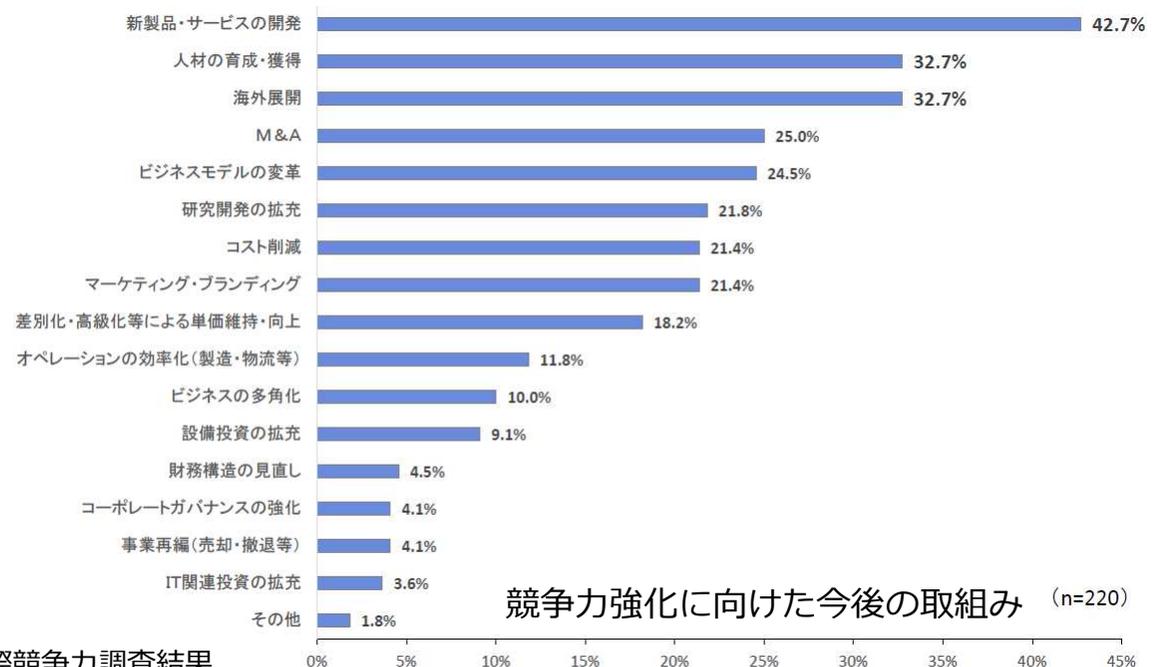
スイスの国際経営開発研究所（IMD）が発表している、主要61カ国・地域を対象にした2016年版「**世界競争力ランキング**」で日本は**26位**と評価されています。前年より1ポイントアップしたものの、1980年代後半から90年代はトップであったことを考えると、**急激に国際競争力が低下**していると言えます。

経団連による「2015年度 日本の国際競争力調査結果」では、**競争力強化に向けた今後の取組み**として圧倒的な1位に挙げられたのが「**新製品・サービスの開発**」（42.7%）ですが、**新たなイノベーションを実現するためにもワークスタイル変革が注目**されているのです。

出典：経団連：2015年度 日本の国際競争力調査結果

	国名
1位	香港
2位	スイス
3位	アメリカ
4位	シンガポール
5位	スウェーデン
~~~~~	
25位	中国
<b>26位</b>	<b>日本</b>

出典：国際経営開発研究所（IMD）2016年版「世界競争力ランキング」



競争力強化に向けた今後の取組み (n=220)

## なぜ今、ワークスタイル変革が求められるのか

- ワークスタイル変革の目的は「企業の競争力、価値を高める」ことにあり

日本の企業を取り巻く4つの実状からわかるように、このままでは**国際競争力はますます低迷**し、ひいては**企業価値も低下**してしまいます。**新しい働き方は「労働者の生活の充実」だけでなく、「企業の競争力・価値の向上」のためにも必要**とされているのです。

### 新しい働き方による解決策

①労働人口の減少



優秀な人材の確保

②低い労働生産性



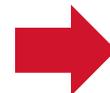
生産性の向上

③労働環境の悪化



働きやすい環境づくり

④弱まった国際競争力



イノベーションの創出

しかし！必要性はわかっても…

▼なぜワークスタイル変革は進まないのか？

## ワークスタイル変革を阻む“3つの壁”

### ●これまでの“働き方”を変えるむずかしさ

ワークスタイル変革は「**企業の競争力、価値を高める**」ことこそ目的となります。しかし“変革”のためには、企業を変えていかなければならない3つの“壁”も存在します。そのため「必要性はわかっているけど、新しい働き方が実現できない」というジレンマに陥ってしまいます。

#### ①制度・プロセス

「人事制度」「評価制度」「勤務体系管理」などを見直しが必要で  
**組織や評価を全面的に組み直すための負荷が膨大に**

#### ②文化・風土

「上司が帰るまで帰れない」「有給が取れない」などの企業文化を変えるには  
**経営層だけでなく社員全体の意識を変える必要が**

#### ③環境・ツール

新たな働き方のためにICT環境やオフィス環境を整備し直しが必要だが  
**IT資産への限られた投資の振り分けが困難**

一朝一夕には実現しないワークスタイル変革  
**▼どこから手を着けるべきかを2章で解説**



## 2章 ワークスタイル変革の“カギ”は コミュニケーションにあり



## 2章 ワークスタイル変革の“カギ”は コミュニケーションにあり

### 働き方が変わればコミュニケーションも変わる

- 目的である「企業の競争力、価値を高める」ためにどうするかを考えるのがスタート

ワークスタイル変革は、企業全体を大きく変えることから、取り組むべき点が多々あります。しかし、その中で優先順位をつけるならば、**ワークスタイル変革を行う本来の目的を、いかに実現するかというスタンス**で考えるのが近道です。ここで、もう一度整理してみましょう。

ワークスタイル変革の目的は「**企業の競争力、価値を高める**」こと

そのために必要なのは“新しい働き方”による  
「人材確保」「生産性向上」「労働環境改善」「イノベーション」

4つの課題の解決を実現するために必要なのは  
「**個人の多様な働き方と生産性向上**」と「**組織・チームでの質の高い働き方**」

そのための“カギ”は  
「**コミュニケーションの見直し**」と「**コラボレーションの活性化**」

コミュニケーションの見直しで

多様な働き方ができ生産性も向上

コラボレーションの活性化で

組織・チームとしての能力を発揮

## 2章 ワークスタイル変革の“カギ”は コミュニケーションにあり

### ワークスタイル変革の土台はコミュニケーションツール

#### ● 時間や場所、組織にとらわれずに“チームでコラボレーション”

“チーム”とは、単に属性で集団を分類した“グループ”と異なり、「ある目的のために協力して行動」することが前提です。企業における“チーム”は、業務という目的のために、協力して新しい価値を生み出すためのものなのです。伝統的な日本の企業におけるチームでのコミュニケーションは、ICTの活用が広がってからも、実際に集まったの会議からなかなか脱却できませんでした。

しかし、**在宅勤務、時短勤務、複数部署や企業など、様々なワークスタイル**の人材がチームにいる中では、「**時間」「場所」「組織**」を超えた**コミュニケーション**をとることのできるツールにより**コラボレーションを図ることが業務の土台**になるといっても過言ではありません。

これまでも、メールやグループウェアなどにより、「時間」「場所」「組織」を超えた情報共有は行われてきましたが、いかに効率的に新たな価値を生み出すかを考えたとき、**求められるキーワードが“ビジュアルコミュニケーション”**なのです。

**ビジュアルコミュニケーションを活用した新提案**

**▼ 「HUDDLE WORKPLACE」を3章で解説**



## 3章 新しいコラボレーションのカタチ HUDDLE WORKPLACE



# 3章 新しいコラボレーションのカタチ

## HUDDLE WORKPLACE

### ワークスタイル変革を成功に導く新提案

- 「いつでも必要な時に人が集まる」「終了後は即解散」というコラボレーションスタイル

リコーが提案する新しいコラボレーションの形が「**HUDDLE WORKPLACE**」(ハドルワークプレイス)です。ハドルとはアメリカンフットボールのゲーム中に、フィールド内で次のプレーを行う選手が集まって、手短に行う作戦会議のことです。

改まった会議室ではなく、日常の仕事場である**オフィス空間にビジュアルコミュニケーションツールを配置**することで「ミーティングをしたい時は、すぐにデスクからメンバーが集まり、迅速に意思決定できたらすぐに解散し仕事に戻る」という効率的なコラボレーションを実現します。

また、その場にいる人とだけでなく、離れている人ともすぐにコミュニケーションをとることも重要です。**テレビ会議やWeb会議**があれば、**他のフロアや離れた拠点、在宅勤務や外出先・出張先のスタッフ**とも、あたかも**目の前にいるようなコミュニケーション**が可能です。

▼チームのコラボレーションに必要な環境とは？

# 3章 新しいコラボレーションのカタチ HUDDLE WORKPLACE

## チームのコラボレーションに必要な環境とは

- 必要なのは4つのポイント

チームでのコラボレーションに必要なのは**メンバーが連携して活動するためのコミュニケーション**の環境です。そのためには次の4つの条件を備えたコミュニケーション環境が必要です。

### 必要な時にすぐに必要な人と話せる

必要な時に関連するメンバーが**サッと集まって話せる「場」**が必要  
居室内の**オープンスペース**に**少人数向けの打ち合わせスペース**を多く作る  
**外出先や離れた拠点のメンバーともすぐにつながるテレビ会議**を用意する

### みんなのアイデアを可視化できる

集まったメンバーの**アイデアや情報**を**見える化する**ことで議論を活性化させる  
**プロジェクターや電子ホワイトボード**などの**議論のためのツール**を設置する

### 誰でも簡単に使えること

**みんなに利用されるツール**となるには、**誰でもすぐに使えるツール**であること  
「準備不要ですぐに使える」「マニュアルがなくても使える」  
「IT担当を呼ばなくても使える」「運用・管理も簡単」

### 自然と周りの状況が共有できる

チームや組織などの**メンバーや周りの状況の共有度が高いほど**、**コミュニケーション、コラボレーションは活性化**する  
**オープンなコラボスペースやデジタルサイネージ**で**自然な情報共有を促進**

## ▼ 「HUDDLE WORKPLACE」の創り方とは？

# 3章 新しいコラボレーションのカタチ HUDDLE WORKPLACE

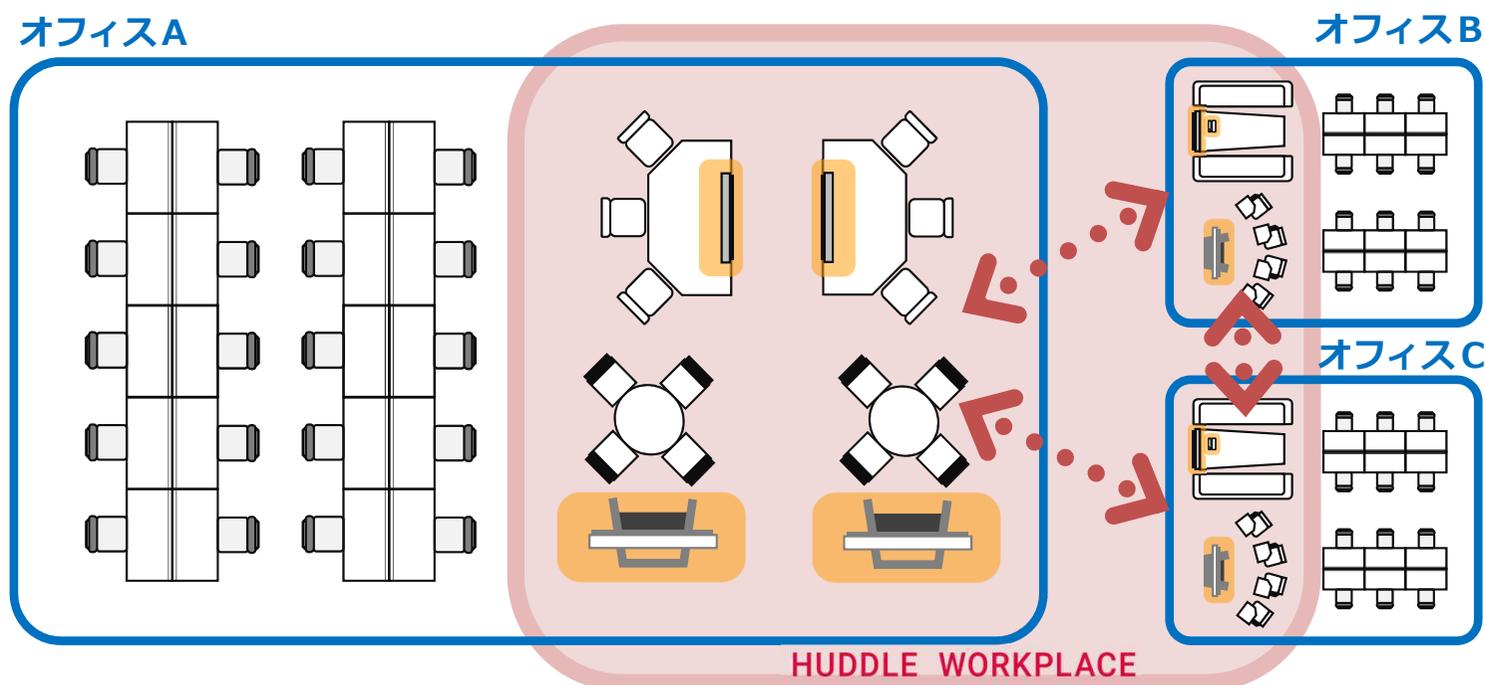
## オフィス空間 × ビジュアルコミュニケーションツールで創る HUDDLE WORKPLACE

### ▼オフィス空間

オフィス内にすぐに集まれる**オープンなコラボレーション用スペース**を作る

### ▼ビジュアルコミュニケーションツール

議論を活性化させる**電子黒板**や離れたオフィスともすぐにつながる**テレビ会議**を設置する



# 3章 新しいコラボレーションのカタチ HUDDLE WORKPLACE

## HUDDLE WORKPLACEの活用例

- オフィスのオープンスペースだから、効率的にミーティングが可能に

いつでも必要なときに人々がサッと集まり、コラボレーションする  
ミーティングの後はパッと解散してすぐに仕事に戻る

**14:07**

チームで「ミーティングが必要」と思ったら、  
すぐにオープンスペースに移動



**14:09**

電子ペンで書き込みができるインタラクティブホワイトボード（電子黒板）など、アイデアを可視化できるツールを活用してミーティング



**14:20**

離れたオフィスにいるスタッフのアイデアを聞くために、テレビ会議システムで接続



**14:25**

アイデアがまとまったところで解散し、共有した情報をもとに各自が自席で次のステップに進む



# 3章 新しいコラボレーションのカタチ HUDDLE WORKPLACE

## HUDDLE WORKPLACEを実現する リコーのビジュアルコミュニケーションツール

### テレビ会議・Web会議



「簡単」「クラウド」「ポータブル」だから、必要な時にいつでもどこでもつないで、顔をあわせてのコミュニケーションが可能。

### インタラクティブ ホワイトボード



映した情報にみんなのアイデアを直接書き込みながら議論ができるコラボレーションツール。離れた拠点との書き込み共有も可能。

### プロジェクター



わずか11.7cmからでも投影できる超短焦点プロジェクターなど、狭い場所やオープンスペースでも大きく映せる。

### デジタルサイネージ



簡単・低価格で導入できるクラウド型デジタルサイネージ。オープンスペースに設置することで社内の情報共有を活性化。

# 新しいカタチのコミュニケーション&コラボレーションで ワークスタイル変革の第一歩を！

ビジュアルコミュニケーション / HUDDLE WORKPLACE

テレビ会議・Web会議システム

インタラクティブ ホワイトボード（電子黒板）

プロジェクター

デジタルサイネージ

<http://www.ricoh.co.jp/solution/vc/>

<http://www.ricoh.co.jp/ucs/>

<http://www.ricoh.co.jp/iwb/>

<http://www.ricoh.co.jp/projector/>

<http://www.ricoh.co.jp/signage/>

**RICOH**  
imagine. change.

## 株式会社リコー

<http://www.ricoh.co.jp/solution/vc/>

2019年3月1日版

※本資料の文章・写真・イラストの無断転載を禁じます。

※本資料に記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

© Ricoh Company, Ltd.